

おもしろいね！が、きっとみつかる。

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

みやシニア
活動センター
通信 vol.23
(平成28年3月発行)

宇都宮市まちづくりセンター（まちぴあ）特集号

まちづくりセンター（まちぴあ）は、市民の皆さんによるまちづくり活動が、より一層活性化されるよう、非営利活動団体や地域活動団体、企業などの様々な主体の連携促進やボランティア団体、NPO 法人といった市民活動団体の組織基盤強化など、多様な支援を行うまちづくり活動の拠点施設です。

具体的な業務は、①相談対応、②まちづくり活動団体の連携・交流促進、③情報の収集・提供、④活動場所の提供、⑤人材の育成 等です。

今回は、まちぴあで活動している団体の活動状況等を含めて取材してきました。



◆ 「まちぴあ」と登録団体の紹介

- ① 市まちづくりセンターを訪ねて
- ② 影絵光で子供の歓声に出会いたくて！
- ③ 花と緑で仲間とのきずな
- ④ 古賀志山を守ろう会の活動状況！

◆ 地域デビューコーナー : そば打ちで富屋のまちおこし 山口豊彦さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。



【 「まちびあ」の全景 】

あなたは「まちびあ」をご存知ですか。
宇都宮市まちづくりセンター「まちびあ」はまちづくりの拠点として JR 宇都宮駅東の市の体育館のすぐ南にあります。

様々な市民活動や自治会などの地域活動の相談にも応じてくれ、多くの活動団体間の連携・交流の場ともなっています。

玄関を入ると驚くほどの圧倒的な量のチラシやお知らせ・各種団体の会報などが迎えてくれます。

それもそのはず、ここには約260もの団体が登録されており、各団体の広報紙や参加者募集のお知らせなど多くの情報が分かるようになっている他、無料の打合せのスペースや貸しオフィス、登録団体が使用できる研修室などがあります。

お話を伺った小倉事務局長によると「登録されている団体はいずれも各種の市民活動やボランティアそしてまちづくりなど、それぞれの分野で活発な活動をしている団体ばかりです。」

「こんなグループがあったら、こんなグループがないかと探している方、またグループを新たに立ち上げたいと思っている方も、ここに来れば多くの情報があり相談にも乗りますので是非来てみて下さい」との事でした。



【多くのチラシが迎えてくれる玄関】

ところで、あなたは朝起きたら何かすることや出かける用事がありますか。

何もすることがなく一日をただ過ごしていませんか。
人が生きていくには一定の**教育と教養**が必要です。

そして私たちシニア世代にはそれに加えて更に、今日どこかに行くところ(今日行く)、今日何かの用事がある(今日用)が必要なのです。



【情報展示コーナー】

家にいるだけでなく外に出かける場所や目的があることが、元気に生き生きと日々を過ごすための秘訣の一つであると言われています。

また、人とのつながりが多い人ほど長生きをするという研究結果もでています。

ボランティア活動や社会に役立つことをしてみたいなど活躍の場を探している方、思っているだけでなく是非一度「まちびあ」を訪ねて下さい。

あなたの探しているものが、見つかるかも知れません。

② 影絵光で子供の歓声に出会いたくて！

取材：石井特派員



【「まちぴあ祭り」でお話する会員の皆様】

昨年の11月に「7周年記念公演」を盛大に行った「影絵光」の会長、石倉雅子さんに、活動拠点の宇都宮市東市民活動センターでお話をお聞きしました。現在9名の会員で、毎週水曜日の午前中に当センター等で活動し、「影絵」は全て会員の手作り。演目の決定、脚本作成、配役や担当分担、せりふ・音響練習、吹き込み、CD作成、背景や暗体製作、CDに合わせて動きの練習、さらに講師の綾部先生の指導を受けOKが出て完成。その期間は1年から1年半かかる、まさにゼロからのスタートということです。

上演に向けての準備や練習には大変なエネルギーを要しますから、出来上がる喜びは大きいものです。幼稚園、小学校等からの依頼により、多い月には2～3回上演していますが、今年は、17回の予定です。子供の真剣な眼差し、笑顔、歓声に、疲れも辛さも吹き飛び、「また来てね」の声に励まされて、一層練習に力が入るといいます。

埼玉県で影絵をやっていた石倉さんは、転居した宇都宮の地でできないものかと、新しい友達へ声を掛け、誘って始めたのが9年前。暗中模索の中、「まちぴあ」の細やかな指導や助言で宇都宮市の助成金の申請にこぎ着け、見事助成金を受けることができました。「まちぴあ」の一角に練習会場も得て、ボランティアグループとして活動を充実させ、毎週暗体製作・練習等を重ね、レパートリーは、現在「一寸法師」「孝子桜」「ジャックと豆の木」などの「お話の影絵」9作、「山の音楽家」などの「歌の影絵」20作になるそうです。

10月18日の「まちぴあ祭り」では、「影絵光」の部屋に集まった約30人の子供や親が影絵を製作。会員に丁寧に教えられながら、厚紙に描かれたクマ、ウサギ、ライオンなどの絵を鋏やカッターで切り、色セロファンを貼り付け、割り箸を付け、補強用の透明板を裏打ちして出来上がり。臨場感たっぷりの舞台装置のスクリーンに自分の影絵を映し出して感動する子供と笑顔の母親達。その後、会員総出で「おやゆびひめ」と「歌の影絵」をCD音声に合わせて、美しい色彩、精巧な造りの背景・装置の転換と、登場物のスムーズな動きで上演しました。思わず引き込まれ声を揃えて歌い出す子供たち。「アンコール！」に市や県の名所の見事な影絵の「四季の歌」。夢の世界に子供を誘う技巧、阿吽の呼吸での一糸乱れぬ動きはまさに芸術の域です。

今後も技術を磨き、切磋琢磨し合いながら、要望があれば上演を続けるとのその心意気にも感服しました。

「影絵に興味有」「工作機械操作得意」「車運転の出来る」人で希望者は、下記の石倉代表へご連絡を！

○ 問い合わせ先：宇都宮市御幸ヶ原町 155-85

「影絵光」会長 石倉雅子 Tel028-663-6061 へ



【子供たちとの影絵の上演】



【子供たちと一緒に影絵の製作】



【「花いちもんめ」の皆さんの
草むしりボランティア状況 その1】

9月のある日、「花いちもんめ」の皆さんが、駅東公園の花壇で草むしりをしているとのことで、お邪魔しました。

月に1度定例会として、馬場廣会長のもと、会員15名のうち当日は10人以上の人が参加していて、明るい話し声が聞こえます。

夏に伸びた草花の除草や、秋の定植に備えての整備等、1時間かけての作業中手の休まることは無く、少々の雨天でも決行しているそうです。

作業後は、反省会と称してお茶を飲みながら、座談会へ。今日の反省と今後の予定ということで、机の上には、次の花壇の植栽計画書記入表があり、来月までにそれぞれの考えを持ち寄り、当日も参加

していた市職員の方と共に決めていくとのことでした。

その反省会の際に、「まちぴあ」との繋がりは何と伺ったところ、馬場会長が、他に加入しているボランティアの活動拠点として借りていた「まちぴあ」の部屋を「花いちもんめ」での活動にも使用できれば、より活動の範囲が広がると思ったため、「まちぴあ」に団体登録して、現在の活動へと繋がってきたとのことでした。



【「花いちもんめ」の皆さんの
草むしりボランティア状況 その2】

皆さんの入会のきっかけについて伺ったところ、市が募集する「緑のボランティア養成講座」の第9期生、卒業生が中心でまとめ、平成13年頃から始めたそうです。そこから修了生達が自主的に加わり、年齢は60~75歳くらい、最高齢は80歳とか。でも気持ちは作業同様若い、若い。

また、驚いたのは、苦勞話は無く、みなさん花好きで、話を盛り上げるほど前向きであるということ。ときには、会員それぞれの花壇を見学して花の勉強をしたり、花の交換もするというので、まとまりのある様子が伝わってきました。

会員全員が「お互いにくまなく、会長」と連絡網がきちんとなされており、会員を思いやる気持ちが込められていて、それが持続する理由なのかなと感じました。

今回、私は、会員の皆さんの「常に市民が出入りする公園に適した花を。」と入念に花壇の景観を考えて、「生かして翌年また持たせる」という温かい思いに感動しました。

お会いできた皆様のますますのご活躍をお祈りします。



【代表の馬場 廣さん】

④ 古賀志山を守ろう会の活動状況！

取材：清水特派員



【古賀志山と代表の池田さん】

今回、「まちぴあ」登録団体のNPO法人「古賀志山を守ろう会」取材することになり、代表の池田正夫さん宅を訪れました。私自身生まれは山村で山には馴染みがある。戦後間もなく郷を出て首都の片隅で生活をしてきた物の何もない時代、若者の娯楽としてハイキングや山登りが流行、近郊の山々や果ては南アルプスの山に登ったこともあり、会の名称に興味を抱きました。

池田さん宅は、宇都宮市大通り2丁目で現大通りの裏通りにあたりますが、往時は奥州街道であったとか。とにかく気持ちよく迎えて頂きました。池田さんと「まちぴあ」との関わりは、会を立ち上げた際、市の窓口で、定款作成等の相談先として紹介されたとのことでした。

池田さんは、古賀志山麓に生まれ育ち、城山西小学校卒業とのこと。長じて教職一筋、退職後も宇都宮市中央公民館の社会教育指導員として勤務。古文書を手がかりに日光山地の日光修験者のたどった道を踏破し、『日光修験三峰五禅頂の道』を、さらに『古賀志の里歳時記』を刊行されました（随想社刊）。山に寄せる愛着心を感じると同時に、職歴柄とは言え、その学識に驚かされました。

古賀志山は、民有林が46%、国有林が41%、市有林が13%となっており、現在は宇都宮県立自然公園に指定され、保護区域になっていますが、近年のハイカー等の増加や常軌を逸した樹木の伐採、工作物の設置、無益な山道の開削などが行われたことから、地主と登山愛好家有志30人で、平成26年6月26日「古賀志山を守ろう会」を立ち上げ、同8月26日に「特定非営利活動法人」として認可されたそうです。

会員は徐々に増え、平成27年8月現在、69名、2団体、賛助会員20名になっています。主な活動は、入山に際しての啓発活動、古賀志山系の環境保全活動です。会員の手作りによる主稜線の古賀志山頂・御嶽山・赤岩山の山名板や地名板及び道標は、38ヶ所設置が完了しています。現在、森林公園の赤川ダム周辺の古賀志山ハイキングマップしかないため、古賀志山主稜線を含む「古賀志山系マップ」の作成に取り組んでいるとのことでした。

はじめにも記しましたが、私は山村生まれで近くの山や遠山を眺めるのが好きで、後日、国道293号線から宇都宮今市線（70号線）を駆って、眺めの良い武子川沿いの田園から、古賀志の山魂を撮ってきました。



【山名板の設置作業の様子】



【そば打ち中の山口さん】

家族や友人の為に、そばを打つことが出来ればどんなに素晴らしいことでしょうか。今回は、富屋の町おこしとしてそば打ちを披露しながら、様々な活動に取り組んでいる、徳次郎在住の山口豊彦さんを紹介します。

山口さんは、昭和23年生まれの67歳。

『富屋地区まちづくり協議会』のメンバーとして、これまで8年間、町おこしのために情熱をもって頑張ってきた。そんな山口さんの活動方法は、大好きな「そば打ち」です。

山口さんが「そば打ち」を通じた町おこしに取り組むきっかけとなったのは、若い頃、宇都宮市青少年健全育成制度の富屋地区指導員となった事だそうで、この時「遊び」を通し、子どもたちに様々な経験をしてもら

いたいの思いから、山口さんが自ら考え作っていった活動のなかで、子どもたちに人気があり、また、山口さん自身も、楽しくできた活動が「そば打ち」だったそうです。

山口さんは、現在『富屋そば打ちクラブ』を立ち上げ、会員数は30名に達し、あちこちのイベント等で活躍されており、これまでどれだけの保育園、小学校、中学校、各地の文化祭等で披露してきた事でしょう。山口さんの「そば打ち」は、月2回、富屋地区市民センターで練習しており、毎年11月には、日頃の成果を披露する集大成の場である『富屋そば祭り』で、なんと350食のそばを打つそうです。また、同じ11月に、小学生のジャズバンドや中学生の吹奏楽、地域の伝承芸能である「獅子舞」など様々な出し物があり、子供会・老人会・婦人会総出の大イベントである『とみやふるさと祭り』が開催されますが、山口さんはこの企画・運営にも関わり、昨年も、盛況のうちに終了することができたとのことでした。

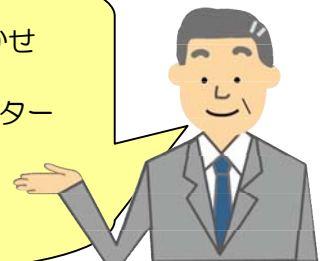
いつも「富屋の町おこしのためにはどうしたらいいだろう」という思いでいっぱいな山口さんは、さらに、町おこしのための新たな情報やアイデア・ヒントを得ようと「栃木県シルバー大学校中央校」に入学され、現在、36期生として在学中です。

そんな山口さんの「そば打ち」を見学したい方は、是非、連絡をくださいとのことでした。

(連絡先：山口豊彦さん Tel090-8686-5652へ)

《事務局からのお願い》

- ・ 「みやシニア活動センター通信」をご覧になった、ご意見・ご感想をお聞かせください。今後の参考とさせていただきます。
- ・ 地域で活躍するシニア世代の方の情報がありましたら、みやシニア活動センターまでお知らせください。
- ・ ご意見・ご感想・シニア特派員等に関するお問合わせは、下記までお願いします。



○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）

住所：宇都宮市中央1丁目1-15 宇都宮市総合福祉センター8階

電話：028-639-8585 ファクス：028-639-8575

ホームページ：http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp